

# FY24決算サマリーおよび今後の成長戦略 説明資料



株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)  
プライム市場(証券コード:3774)  
2025年5月13日

## 事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。

# I - 1. IIJセキュアMXサービスにおけるお客様情報の漏えいについて

当社プレスリリースに記載の通り、当該サービスを利用しているお客様情報の一部が外部に漏えいした可能性があることを公表いたしました。

## #0 事象発生

不正アクセス発生日。調査の結果、この日以降の影響が発覚

## #2 プレスリリース(第一報)

情報漏えいの概要や漏えいした可能性のある情報及び影響を受けたお客様について情報公開

情報が漏えいした可能性のあるお客様数  
最大6,493契約、メールアドレス数 4,072,650件

## #4 プレスリリース(第二報)

調査結果報告の位置づけで、漏えい事実が確認されたお客様契約数、不正アクセスの原因、原因となった脆弱性について情報公開

情報が漏えいした事実が確認されたお客様数  
586契約、メールアドレス数 311,288件

2024/8/3

2025/4/10

4/15

4/18

4/22

～5/13

## #1 事象認識

お客様情報の一部が外部に漏えいした可能性を認識

- ・ 弊社担当からお客様への連絡を開始
- ・ プレスリリースの準備

調査の結果、第三者製ソフトウェアの未知の脆弱性を悪用した攻撃と確定

## #3 (※)JVNにて脆弱性情報公開

JVNにて当該脆弱性情報が公開。当該時点では、本脆弱性と本情報漏えいの関連性については当社からは言及せず

## #5 各種対応を継続

影響のあった契約中のお客様や解約済みのお客様、関係機関との対応を継続

## 今後の対応について

恒久的な再発防止に向けて、セキュリティ対策および監視体制のさらなる強化について検討を進めております。

1. 振る舞い検知の強化(検知) → 本年6月末までの実装を予定しております。
2. Webアプリケーションファイアウォールの多層化検討(防御) → 本年5月末までに実装可否を判断する予定です。

それ以外にも追加的に必要な対策を検討しており、お客様への信頼回復と今後より一層安心してサービスをご利用いただける対応を速やかに実行してまいります。

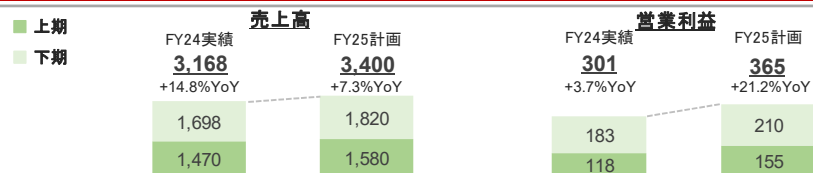
(※)JVN(Japan Vulnerability Notes):日本で使用されているソフトウェアなどの脆弱性関連情報とその対策情報を提供し、情報セキュリティ対策に資することを目的とする脆弱性対策情報ポータルサイト。脆弱性関連情報の受付と安全な流通を目的とした「情報セキュリティ早期警戒パートナーシップ」に基づいて、2004年7月よりJPCERT コーディネーションセンターと独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が共同で運営しています。

# I - 2. FY24決算概要・FY25事業計画

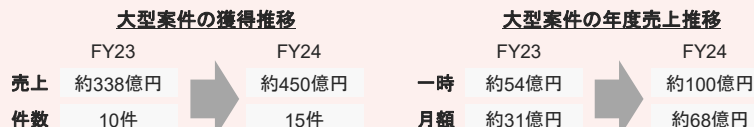
単位: 億円  
+%, YoY = 前年同期比  
当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示

## FY24決算概要

大型NW構築・運営案件 多業種で獲得恒常化  
VMwareライセンス価格転嫁は一巡  
見通し超過の高増収・中計1年目として事業拡大の布石に



◆ SI構築一時売上高増収 +37.8%YoY・ストック売上継続伸長 +9.8%YoY

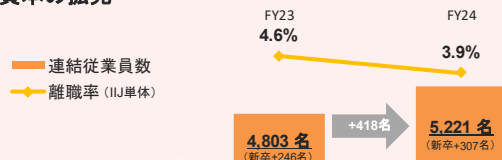


※10億円以上稼数年大型案件の獲得総額(左)とFY22以降に獲得した大型案件の年度売上計上額(右)

◆ VMwareライセンス大幅値上げへの対応

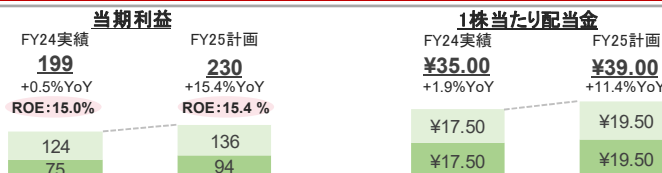
- FY24利益影響額 約△15億円(1Q:△12億円、2Q:△4億円、3Q: -、4Q: +1億円)
- クラウドは直接価格転嫁(上期)・NWサービスは一部価格改定(下期初)で転嫁対応はほぼ収束
- 営業等の必要対応リソースの影響等でNWサービス積み上げが想定比ビハインド

◆ 人的資本の拡充



## FY25事業計画

大型サービスインテグレーション案件継続獲得・  
広範囲なNWサービス積み上げ注力の二本柱で  
中計3年目に向け利益向上を強化



◆ 大型NW構築・運営案件への継続注力

- 強い社内外NWの更改需要 金融・一般事業法人他で潜在案件継続
- ITインフラ運用フルアウトソース需要・案件が徐々に顕在化

◆ 広範囲なNWサービスの積み上げ注力

- 営業組織を大口・NWサービス注力・パートナー対応等へと再配置
- NWサービスラインアップの機能拡張に注力

◆ 新経営体制始動(25年4月～)

- 成長戦略・ビジネスモデルは不変

組織・役割体制強化、社長直轄プロジェクト他で実行エンハンス

データ流通・連携ビジネス サイバーセキュリティ強化 イノベーティブな人的資本強化

◆ 人的資本の拡充

- FY25連結従業員 純増約440名見込み うち新卒269名  
4月賃上げ 昇給率約6% (従前3.5~4%・IIJ単体)
- 確定拠出年金中心へ退職金制度改定(IIJ単体)  
退職給付引当金戻り 10億円強(販管費・2Q予定)

◆ マクロ環境

- 高需要継続中、米国関税の直接的影響はほぼなし・国内景気低迷で一定の企業支出減退影響の可能性有り、一方でIT活用での効率性追求需要は高水準継続と想定

# I - 3. IT領域におけるフルアウトソース化の潮流とIIJの目指す世界観

## “つながる”を基盤に“価値”を創る――IIJが目指すITインフラの進化系

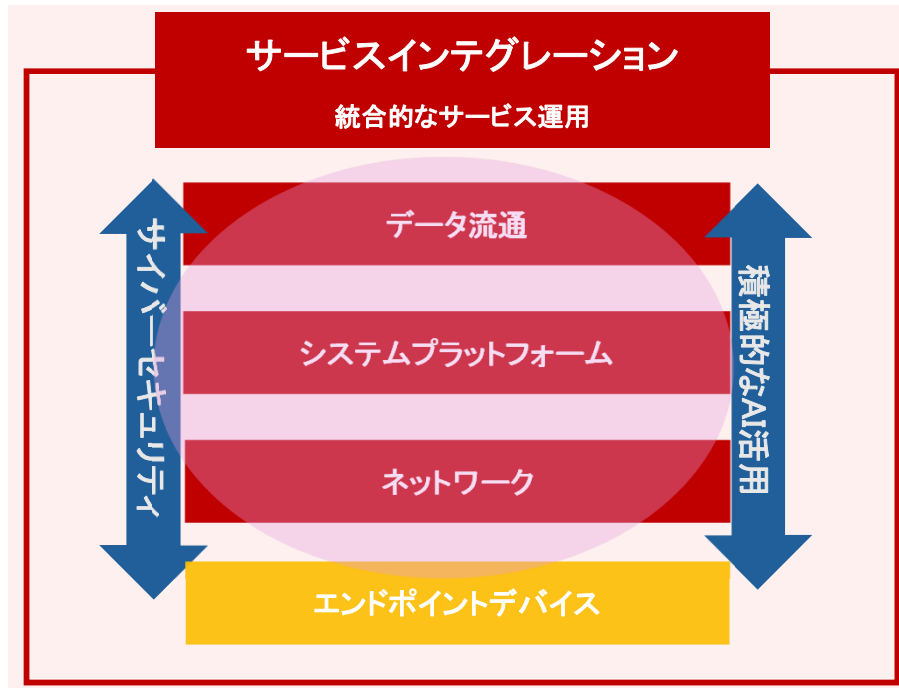
現状 (ITを取り巻く環境)

IT活用の重要度増大

IT運用の複雑化・高度化

DX対応のリソース不足

これから (IIJの普遍的な成長領域)



# I - 4. FY25の注力ポイント「原点回帰 コア領域の徹底強化」

## 中長期ビジョンを見据えたコア領域強化と次世代収益基盤の構築

更なる企業価値向上へ

FY25

### 中長期ビジョン

サービス提供事業者として**売上高 5,000億円規模**へ

- ・ コア領域に最注力。国内有数のリーディングポジション確立
- ・ NWサービスを中核にAI等の先端技術を融合させ社会課題解決と企業のアウトソース需要に応える**サービス提供事業者**の地位を確立。データ流通・連携ビジネスは本格的な事業化・収益化フェーズへ移行し、実効性ある成長施策として具現化

中長期以降の成長に向けた強化

ITフルアウトソース

社会課題解決

グローバル展開加速

### 現中期計画 (FY24-26)

コア領域を徹底強化し**事業規模拡大を加速**

- ・ ネットワークを軸に、サービス機能およびサービスインテグレーションを強化  
顧客ニーズに応じた**付加価値の高いサービス**をタイムリーに提供
- ・ 現中計における新たな成長領域を見据え、経営直轄プロジェクトチームにて重点施策を実行。AIやデータ流通・連携ビジネスなど**次期中核商材**創出に取り組む

経営直轄重点施策

データ流通・連携ビジネス

サイバーセキュリティ強化

イノベータティブな人的資本強化

### 前中期計画 (FY21-23)

法人向けストック売上の拡大を軸に**持続的な利益基盤**を構築

- ・ コロナ禍の旺盛なIT環境整備需要に応える形で強みのあるネットワーク、セキュリティ領域を中心に**事業規模の拡大**
- ・ 従来より多岐に渡る領域において**ストック収益基盤**を構築し持続的な企業成長が実現できる素地を形成



日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

---

IIJはいつもはじまりであり、未来です。